

※平成31年以降の表記は、新元号に読み替えることとする。

事業番号

0165

平成31年度行政事業レビューシート ( 総務省 )

<b>事業名</b>	国際統計協会分担金			<b>担当部局庁</b>	政策統括官(統計基準担当)		<b>作成責任者</b>		
<b>事業開始年度</b>	昭和元年度以前	<b>事業終了(予定)年度</b>	終了予定なし	<b>担当課室</b>	国際統計管理官室		国際統計管理官 津村 晃		
<b>会計区分</b>	一般会計								
<b>根拠法令 (具体的な 条項も記載)</b>	総務省設置法(平成11年法律第91号)第4条第80号			<b>関係する 計画、通知等</b>	国際統計協会規約、会費支払請求通知				
<b>主要政策・施策</b>	-			<b>主要経費</b>	その他の事項経費				
<b>事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度 以内)</b>	オランダに本部を置く「国際統計協会」は、国際的な活動と協調の推進を通じて統計手法の改善等を目的とした国際機関(非営利団体)である。政府の公的統計を所管する当省は、同協会が開催する国際統計協会大会に出席し、我が国の統計に関する情報発信を行い、世界の統計水準の向上に寄与するとともに、同大会で最新の統計情報を入手することにより、我が国の統計の体系的整備に貢献するものである。								
<b>事業概要 (5行程度以 内。別添可)</b>	国際統計協会は、会員の分担金により維持されており、国際統計協会の活動を通じて、世界各国の統計技術の開発、改善に寄与している。我が国の公的統計制度を所管する当省は、毎回、国際統計協会大会に積極的に参加し、発表等を行っており、我が国の統計に関する情報発信を行うとともに、同大会で最新の統計情報を入手することにより、我が国の統計の体系的整備に貢献している(なお、これまでに3回、我が国においても、国際統計協会大会が開催されている。)								
<b>実施方法</b>	その他								
<b>予算額・ 執行額 (単位:百万円)</b>	予算 の 状 況	当初予算	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度要求		
		補正予算	0	0	0	0			
		前年度から繰越し	0	0	0	0			
		翌年度へ繰越し	0	0	0	0			
		予備費等	0	0	0	0			
		計	0.3	0.2	0.2	0.3	0.2		
	執行額	0.3	0.2	0.2					
	執行率(%)	100%	100%	100%					
	当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%)	100%	100%	100%					
	<b>平成31・32年度 予算内訳 (単位:百万円)</b>	歳出予算目	31年度当初予算	32年度要求	主な増減理由				
国際統計協会分担金		0.3	0.2						
その他		0	0						
計		0.3	0.2						
<b>成果目標及び 成果実績 (アウトカム)</b>	定量的な成果目標	成果指標		単位	28年度	29年度	30年度	中間目標 31年度	目標最終年度 -年度
	国際統計協会大会(隔年開催)に参加し、1回以上、論文発表等を行う。	国際統計協会大会(隔年開催)における論文発表等回数	成果実績	回	-	1	-	-	-
			目標値	回	-	1	-	1	-
			達成度	%	-	100	-	-	-
成果目標及び成果実績(アウトカム)欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙1】に記載								チェック	
<b>定量的な成果目標の設定が困難な場合</b>	代替目標	代替指標		単位	28年度	29年度	30年度	中間目標 年度	目標最終年度 年度
	事業の妥当性を検証するための代替的な達成目標及び実績	(参考指標) 日本人職員数実績	実績	人	0	0	0	-	-
			目標値	-	-	-	-	-	
			達成度	%	-	-	-	-	-

活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	28年度	29年度	30年度	31年度 活動見込	32年度 活動見込
国際統計協会大会(隔年開催)への参加回数		活動実績	回	-	1	-	-	-
		当初見込み	回	-	1	-	1	-
単位当たりコスト	算出根拠		単位	28年度	29年度	30年度	31年度活動見込	
							単位当たりコスト	百万円
予算額(2年分)÷大会参加回数 (大会は隔年で開催されるため、2年分の分担金を単位当たりのコストとして算出)			計算式	-	(0.3+0.2)/1	-	(0.2+0.3)/1	

**事業所管部局による点検・改善**

	項目	評価	評価に関する説明
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	統計行政の充実を図るに当たり、国際的な動向の把握は不可欠である。
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	主要各国の政府統計関係者が参加しており、各国統計関係者等との意見交換・情報収集は、公的統計制度を所管する総務省が行う必要がある。
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	主要各国の政府統計関係者に加え研究者等が参加しており、最新の統計情報を入手することができることから、優先度が高く不可欠な事業である。
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	-	
	一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。		
	競争性のない随意契約となったものはないか。		
	受益者との負担関係は妥当であるか。	-	
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	-	
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	-	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	統計手法や技法の開発・改善を国際的な立場で推進する団体は国際統計協会以外に存在せず、会費は、同協会の運営のための経費としてその事業目的に即して必要な支出が行われている。
不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-		
繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-		
その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	-		
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	○	隔年とも成果を達成している。
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	-	
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	○	隔年とも見込にあった活動実績を達成している。
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	○	同協会が実施する会議に出席し、最新の統計情報を交換することは、世界の統計水準の向上に貢献するとともに、我が国の統計の体系的整備を行う上でも有用なものとなっている。
事業関連	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)	-	
点検・改善結果	点検結果	国際統計協会に引き続き加入することにより、諸外国の統計関係者との人脈構築・交流を一層進めるとともに、国際統計協会大会の機会を活用して更なる意見交換・情報収集を図ることが、我が国の統計の体系的整備に有効である。また、年次報告において会計報告が行われており、分担金の効率的な支出につき、今後も注視していく。	
	改善の方向性	国際統計協会を活用して、世界の統計水準の向上へ寄与するとともに各国からの意見や最新情報を入手し、我が国の統計の体系的整備への一層の貢献等を促すため、同協会の大会においては、我が国の公的統計作成の上で重要な課題、又は国際的に共通すると思われる課題等を積極的に取り上げてプレゼンテーション等を行うよう努める。また、平成30年度行政事業レビューにおける外部有識者の所見を踏まえ、今後の「公的統計の整備に関する基本的な計画」の改定等に向けた情報の蓄積方法等について更に検討を進める。	

**外部有識者の所見**

外部有識者による点検の対象外

**行政事業レビュー推進チームの所見**

現 状 通 り	引き続き適正な予算執行に努めること
------------------	-------------------

**所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況**

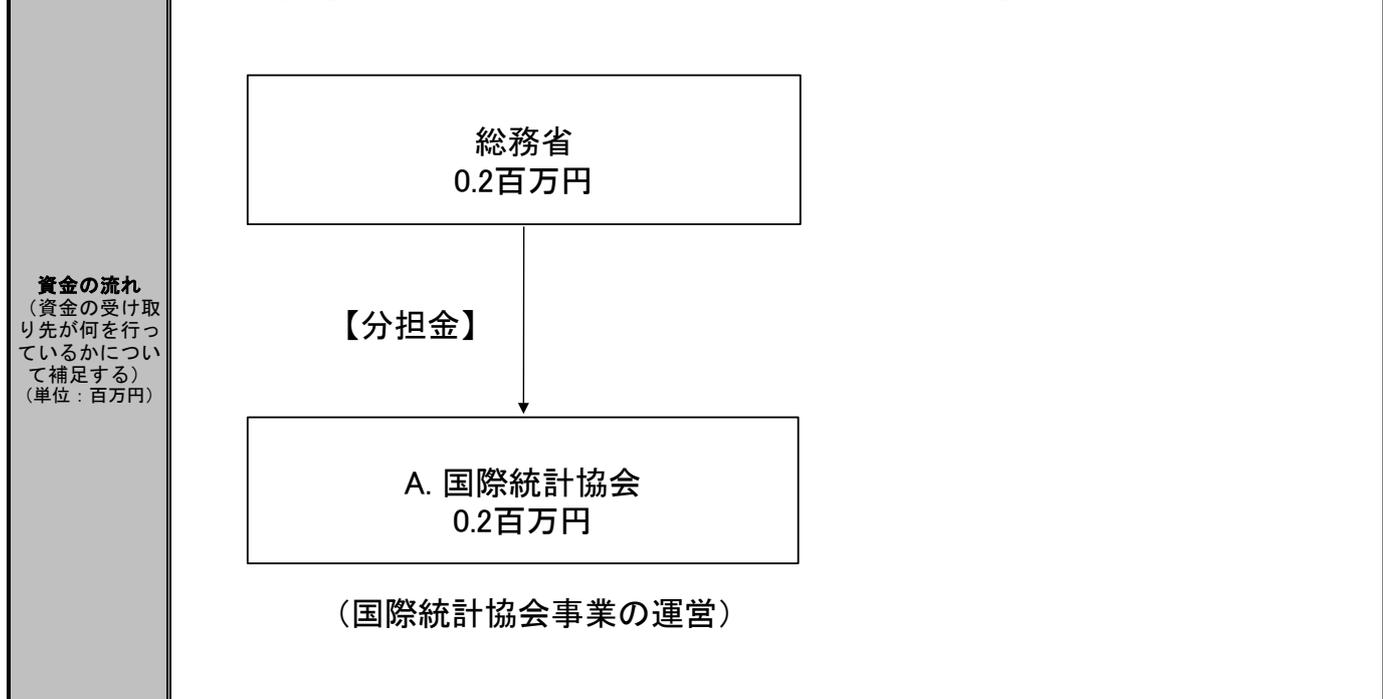
現 状 通 り	条約等に基づくものであるため。
------------------	-----------------

**備考**

**関連する過去のレビューシートの事業番号**

平成22年度	1-3	平成23年度	3	平成24年度	3	平成25年度	173
平成26年度	164	平成27年度	160	平成28年度	155	平成29年度	0159
平成30年度	総務省 ( 0151 )						

※平成30年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。



費目・使途 (「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)	A.			B.		
	費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
	分担金	国際統計協会事業の運営	0.2			
	計		0.2	計		0
	計		0	計		0

費目・使途欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙2】に記載

チェック

**支出先上位10者リスト**

A.

支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1 国際統計協会	-	国際統計協会事業の運営	0.2	その他	-	-	